

## 素材研究 (海外)



光触媒素材を使ったイタリア館の建物。大気中の一酸化窒素や窒素酸化物を吸収して不活性塩に変え、屋根で発電も(写真:地球の歩き方)



大勢の観光客で賑わう大聖堂前の広場



サンタ・マリア・デル・グラツィエ教会に描かれた「最後の晩餐」(©De Agostini Picture Library)



音響効果と豪華な内部装飾で有名なスカラ座は世界的なオペラの殿堂として知られています



威厳に満ちた塔と城壁が見る者を圧倒するスフォルツェスコ城(©Fototeca ENIT)



ミラノ万博のマスコット=フォーディーは、スイカ、洋ナシ、リンゴ、マンゴー、ザクロなど11キャラクターの集合体です



ミラノ万博のシンボルとなっている「生命の木」と名付けられた塔(写真:地球の歩き方)

## 「地球上の食」をテーマにミラノ万博 145カ国・地域が参加して10月末まで開催

「地球上の食」をテーマとする2015年ミラノ国際博覧会が先月1日、開幕しました。10月31日まで開催されるミラノ万博では、参加145カ国・地域が安心な食品を地球規模で確保していく提案を行っています。会場はミラノ中央駅から車で最速10分という好位置にあり、期間中にイタリアや周辺国を訪れるなら、是非、立ち寄りたいイベントです。

### 興味深いテーマのクラスタ館

1906年の国際博覧会から100年余を経てミラノに再来した万博は、「地球に食糧を、生命にエネルギーを」テーマに掲げています。時代の最先端技術や文化が集まる万博の位置づけは変わっていませんが、2005年の愛知万博以降、人類が直面する課題の解決策を提言する場としても万博の重要性が高まってきました。

東京ドーム約22個分という広さを持つ会場には、50を超える単独パビリオンの他に、単独館を持たない参加国・地域の合同展示館であるクラスタ館も展開されています。大陸別ではなく、食品の種類やテーマ性に基づくクラスタ館は今回が初めての試みで、「乾燥地域の農業と栄養」「カカオとチョコ」神の食品」「米」収穫量と安全性

といった興味深いテーマを設定。単独パビリオンでは、イタリア館が「苗床」を全体イメージとして、肥沃な大地や芽吹きを通じて若い力を表現しているほか、「共存する多様性」をテーマとする日本館は、ユネスコ無形文化遺産の和食と日本食文化の知恵や技、農林水産業、食への取り組みなどを紹介しています。

### 期間中に開館延長や特別公開も

万博期間中は、ミラノの中心的存在である大聖堂の関連施設が開館時間を延長しています。イタリア最大のゴシック様式の聖堂は、14世紀から19世紀前半までの歲月をかけて造られており、様々な時代の作品を同時に見ることが可能です。夏場にコンサートも開かれるテラススペースは万博期間中、23時まで立ち入ることができ、大聖堂内の考古学スペースも毎日22時まで特別公開されています。世界で最も有名な格式の高いオペラハウスの一つとして知られるスカラ座も、公演シーズンは7月くらいまでですが、併設されている博物館では、劇場の歴史を見学することもできます。

14世紀後半に建てられたスフォルツェスコ城は、威厳に満ちた塔と城壁が見るものを圧倒します。一部は博物館になっていて、ミラノ周辺の重要な美術品を所蔵。そして、サンタ・マリア・デル・グラツィエ教会では、レオナルド・ダ・ヴィンチによって描かれた「最後の晩餐」が訪れる人々を待っています。